

平成28年度第2回総合教育会議 会議録

開催日時	平成28年 8月19日(金) 午後1時30分～				
開催場所	ふれあいの丘 大工房				
会議出席状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育長	植竹福二	出席		
	教育委員	日原悠子	出席	深澤道昭	出席
		川上聖子	出席	車田宏之	出席
		小林朋子	出席		
	庶務	教育部長	益子正幸	教育総務課長	大森忠夫
		学校教育課長	月井祐二	生涯学習課長	渡邊小百合
		教育総務課	遠藤久子・渡邊政典		

次 第

- 1 開 会 午後1時30分～
- 2 あいさつ 市長
- 3 議 事
 - (1)ふれあいの丘ものづくり教室研究室について
 - (2)小中学校再編整備アンケート調査の結果について
 - (3)小中一貫教育について(金田北中学校の取組み状況等)
- 4 そ の 他 特になし
- 5 閉 会 午後2時35分
- 6 会議の要旨 次のとおり

平成28年度 第2回大田原市総合教育会議

平成28年8月19日（金）

午後1時30～2時30分

ふれあいの丘 大工房

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1)ふれあいの丘ものづくり教室研究室について

(2)小中学校再編整備アンケート調査の結果について

(3)小中一貫教育について（金田北中学校の取組み状況等）

4 その他

5 閉会

平成28年度 第2回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成28年 8月19日(金)

開会：午後1時25分から

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成28年度第2回大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の益子でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。
- 市長 (市長 あいさつ)
与一まつりについては、委員の皆様にもご協力いただき盛大に開催できましたことに対しまして御礼申し上げます。
本日は3つの議題について、委員の皆様のお考えやご意見などお聞かせ願えればと思います。
- 教育部長 ありがとうございます。
- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議させていただきます。
ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。
- 市長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおり3件でございます。
まず、(1)ふれあいの丘ものづくり教育研究室につきまして事務局の説明後、協議をお願いいたします。
その後(2)、(3)につきましては一括して事務局から説明をお願いいたします。
- 事務局(生涯学習課) (根本ふれあいの丘ものづくり教育研究室長)
(1)ふれあいの丘ものづくり教育研究室の今後について
- 生涯学習課長 ものづくり教育研究室は、将来を担う子どもたちに再生可能エネルギーの有効活用について考える機会を提供するために本年度4月に設置されました。ものづくりの体験を通じて想像力や情操豊かな人材の育成を目的として、本年度は5回の講座を予定しております。
すでに2回の講座が終了し、女の子の参加者もあり将来が楽しみであり、頼もしい限りであります。
- 根本館長 未来を託す子どもたちには、科学技術に対する正しい認識と理解や科学技術と人間との調和ある関係についての見識を持たせなければなりません。
科学技術の根底にあるのは、人間の創造性であり、これは「ものづくり」によって相乗的に育成されるものであり、資源に乏しい我が国では、特に創造性を活かし、より付加価値の高い「もの」を生産し、将来にわたっても技術立国として立っていかねばならない。そのためにも「ものづくり」に関心をもち子どもたちを育成しなければならないと思います。

○根本館長

ものづくり教育研究室設置の目的

- ①科学技術と生活の関係について関心を高める。
- ②体験を通して、ものづくりや創意工夫の楽しさを学び、ものを大切にする心を育む。
- ③再生可能エネルギーの有効活用や省エネについて意欲を高める。
- ④地元企業への理解を深め、地元企業との共存共栄を図り連携を深める。
- ⑤学生や企業などのボランティア活動など外部機関との連携により大田原市の活性化を図る。

「子どもものづくり大楽」

指導者のもとで、子どもたちが主体的に「ものづくり」を体験し、成就感や達成感を体感してもらいます。

本年度は5回の講座を実施し、保護者の同席は認めず、約2時間から4時間程度で完成を目指します。

「エネルギー教育」

宿泊学習で要請のあった学校を対象に再生可能エネルギーについて体験を交えた講義を実施していきます。

「イベント」

工作活動とおしての小山高専、那須清峰高校との交流イベントを実施したいと思います。

「研究開発」

独自の視点により、大田原市に根付くような実用的な再生可能エネルギーの研究開発を実施。現在、農業用水を利用した小水力発電について研究中であります。

「今後の展開」

各種のイベントや講座を継続し、ものづくりや創意工夫の楽しさ、重要性の理解を進め、定着化をめざします。

市内には優良企業が多数存在しているので、ものづくりを通して企業との連携を深め、具体的には先端技術の紹介や企業OB、学生との交流など相互に刺激できる仕組みを構築していきます。

○市 長

事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。

○川上委員

自転車を漕いでエネルギーを消費し発電する仕組みを実演していただきましたが、健康維持や長寿をテーマにしてみても面白いのではないのでしょうか。

○日原委員

大田原市では昔から竹林が多く、ざるや工芸品もたくさん生産されていますが、竹を利用して何かできないかと思いましたがいかがでしょうか。

○市 長

茂木町では、竹を粉末にして添加物の代わりや食に利用しているそうです。たしかに竹林は放っておけば荒れてしまいますので、新しい利用方法が進めば良いと思います。

○市 長

ほかに質問や意見はないようですので、以上でふれあいの丘のものづくり教育研究室についての協議を終了します。
根本館長ありがとうございました。

○市 長

つづきまして、(2) 小中学校再編整備アンケート調査の結果について及び(3) 小中一貫教育について、事務局より一括説明をお願いいたします。

○教育総務課長

(2) 小中学校再編整備アンケート調査の結果について

現在親園地区、佐久山地区の小中学校について、統合の計画を進めております。答申書には4小学校2中学校をそれぞれ統合することが提案されておりますが、優先的に中学校の統合を進め、小学校については、保護者や地域住民の意向を踏まえて対応することとしております。

佐久山中学校については、今年2月に保護者を対象とした説明会を実施し、それ以外の小中学校については、6月に説明会を実施したところです。

その後にアンケート調査を6月から7月にかけて実施しまして、統合への賛否を聴取しております。

回答者数については、親園地区全体保護者306名のうち225名が回答しており、回答率は73.5%、佐久山地区保護者117名、回答者数は106名、90.6%となっており、やはり佐久山地区保護者の方のほうが関心が高い結果となっております。

結果についてですが、統合に賛成か反対かという問いに対しましては、親園地区で賛成84.0%、反対16.0%、佐久山地区で賛成81.1%、反対18.9%となっております。

調査結果としましては、どちらの地区についても80%以上の保護者が賛成という結果でありました。

次に親園地区の賛成理由の選択肢で意見の多い主な理由ですが、「部活動の選択の幅が広がる」が最多となっており、次に「様々な意見や考え方に接し、思考力、判断力、表現力などが養われる」、「クラス替えができるようになる」、「友達同士で切磋琢磨し『生きる力』をより育むことができる」という順に理由を挙げております。

佐久山地区の賛成理由の選択肢で意見の多い主な理由ですが、親園地区同様に「部活動の選択の幅が広がる」が最多となっており、次に「様々な意見や考え方に接し、思考力、判断力、表現力などが養われる」、「クラス替えができるようになる」、「友達同士で切磋琢磨し『生きる力』をより育むことができる」、「学校まで距離が長くなる場合もあるが、スクールバスがあれば対応できる」という順に理由を挙げております。

反対の方の理由についてですが、親園地区の結果は、「少人数の方が細やかな指導で一人ひとりの活躍の場が多い」、「少人数の方が家庭的な雰囲気の中で学校生活が送れる」、「少人数の方が行事などにおける生徒の参加意識も高まる」という順になっております。

佐久山地区の反対理由については、「少人数の方が細やかな指導で一人ひとりの活躍の場が多い」、「少人数の方が家庭的な雰囲気の中で学校生活が送れる」、「スクールバスが使えても時間の制約があり不便である」という順になっております。

次に統合の組合せ、統合後の学校の場所、通学手段、統合の時期について、回答いただいております。

○教育総務課長

統合の組合せについて、親園地区では答申にある「親園中と佐久山中」の組合せが92.3%と圧倒的であります。

統合後の学校の場所については、「現親園中学校」と回答した方が94.0%となっております。

通学手段については、「スクールバス」と回答した方が66.7%、「自転車」と回答した方が28.3%、その他と回答した方が5.0%となっております。

統合の時期についてですが、「1年から2年後」44.4%、「3年から5年後」42.0%となっております。

続いて佐久山地区についての回答ですが、統合の組合せは、答申にあるとおり「親園中と佐久山中」が86.6%、「広範囲の統合」が9.8%となっております。

次に統合後の学校の場所ですが、やはり答申にあるとおり「親園中」との回答が56.6%、「佐久山中」が22.9%となっております。

通学手段については、「スクールバス」69.4%、「自転車」28.9%となっております。

統合の時期については、「1年から2年後」61.3%、「3年から5年後」32.5%、この結果から佐久山地区の保護者の方は早期の統合を望む声が多いということでありました。

その他自由意見ということで記述していただいておりますが、賛成者、反対者双方ともに最も多い意見としまして、統合するにしても親園中周辺の道路状況がひどく、スクールバスの運行や自転車通学する生徒の安全が確保できないのではないかと不安視する意見が目立ちました。

これらアンケート結果をもとに親園地区、佐久山地区の地域住民を対象とした説明会を9月に開催したいと思っております。はじめに9月16日佐久山地区において説明会を実施し、次に親園地区を9月21日に予定しております。

以上でアンケート結果の報告を終了いたします。

○学校教育課長

(3) 小中一貫教育について

(仮称)北翔学園(金田北中学校区)における取組を紹介施設隣接型プラスワン(金田北中、市野沢小、羽田小)2小1中という特色を生かした取組を行っております。

特色としては3つの部会を形成し、それぞれに「身に着きたい力」、「目指す児童生徒像」という目標を設定し活動しております。

① 学びづくり部会

「身に着きたい力」 学ぶ力

「目指す児童生徒像」 小学校 「考え行動する児童」 中学校

「自主的に行動する生徒」

9年間を見通した学びのスタンダードを作成することを目標に3校共通の授業スタイルの確立を図ります。

基礎学力の向上ということで、目当てと振り返りの実践、家庭学習(宿題)と授業との結び付け。

アクティブラーニングの実践、ICTの効果的な活用。

○学校教育課長

3校が9年間同様のスタイルで臨むことができるように取り組んでおります。

系統的学習指導カリキュラムの作成として、特にICTスキルカリキュラムに力を注いでおり、9年間を通してどの場面でどのようにタブレットなどICT機器を利用すれば最も効果的な学習となるのか独自に研究しております。

②自分づくり部会

「身に着きたい力」やり抜く力

「目指す児童生徒像」小学校 「最後までがんばる児童」 中学校 「意欲をもって最後までやり遂げる生徒」

3つの部会の中で特に中核となる位置づけをしており、キャリア教育の視点に立った考え方を推し進めております。

具体的にはマイワーク・社会貢献活動として、小学校では、家庭で1つの仕事を担当し、それをやり抜くことで家族の一員として自己重要感を育み、自分の特性を少しずつ理解してもらうことを目標とし、中学校では、地域でのボランティア活動を通し、交渉力やコミュニケーション力について学び、9年間で自分のキャリア形成につなげていこうというものであります。

また、「キャリアプランニング力」を育成するため、プロフィールカードを作成し、自分の得意なことや興味関心をもったことを書き記し、各年齢ごとに自分の姿をイメージし、将来の自分の姿を見える化していこうというものであります。

③連携づくり部会

「身に着きたい力」つながる力

「目指す児童生徒像」小学校 「思いやりのある児童」 中学校 「互いを思いやる生徒」

「児童生徒がつながる」とは小学校連携、小中連携の事業を展開することであり、「指導者がつながる」とは小中の先生方が学校や教科の枠を超えて連携すること、「学校・保護者がつながる」とは、さまざまな事業を通して学校と保護者が協力することで双方の絆を結び付けていこうというものであります。

これら3つの部会を中心に北翔学園（金田北中学校区）では小中一貫型教育を推進しております。

続いて、本年度の北翔学園の取組みスケジュールですが、授業研究会を3校でそれぞれの先生方全員に集まって実施します。加えて一斉研修ということで年間で5回実施いたします。そのほか先進地への視察で入間市を訪問し、全国事例の研究ということで「小中一貫教育全国サミット」に先生を派遣する予定であります。

北翔学園では、これら3つの部会が、今年度中に「何を」「いつまでに」「どのように進めていくのか」ということをプロジェクト別に分類しまして、内容を精査し進めているところであります。

以上で小中一貫教育の進捗について報告を終了いたします。

○市長

事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。

○深澤委員

説明会及びアンケートを実施したということですが、今後開催予定の住民説明会はどの程度の方々に集まっていただく予定でしょうか。

- 教育総務課長 地域住民の方々ですが、自治会全体を対象としまして、回覧版により全戸に周知して行う予定であります。
- 日原委員 アンケートを見ると早期に実施したほうがよいという結果がでておりますが、実際の問題として道路関係の対応はどのように考えておりますか。
- 教育総務課長 説明会やアンケートの結果等を道路担当の部署にも伝えまして現在協議中であります。市政懇談会にも話題が出ておりますので、できるところから協議をして道路の修繕を進めてまいります。
- 市 長 道路整備の緊急性については、アンケート結果どおりあります。親園中周辺は公図がなく、用地買収や分割登記も難しい場所でありますので、現道での舗装修繕、場合によっては待避所を地元の方の協力で整備することになると思われま。
- 川上委員 アンケートの賛成・反対の理由を選ぶ選択枝はいくつあったのでしょうか。
- 教育総務課長 8項目であります。
- 日原委員 今後少子化によって児童数も減少傾向にあるでしょうし、アンケートにも野崎中など含めたもう少し広域な統合もあるのでないかと思いますがどのように考えておりますか。
- 教育部長 たしかに市内で4か所程度でも良いのではないかという意見もありますが、そうしますと現有施設では入りきらないということも現実であります。答申では、現有施設に収まるような組合せとして提案されておりますし、建て替えも必要となりますと違った議論にもなりますので、このような現実的な組合せとなっております。
- 深澤委員 地域への説明会を実施したあと、統合までのスケジュールはどのように考えておりますか。
- 教育総務課長 地域への説明会では、賛成反対どちらの意見もあるかと思いますが、まずは子ども達のことを考え、保護者の方の意見を尊重してまいります。その後、概ね合意形成されたということであれば、早い時期、1年から2年後を目安に実施したいと思っております。早ければ今年度に検討会の立上げや準備委員会の設置をできればと考えております。
- 深澤委員 スピード感をもって臨んでほしいと思います。
- 市 長 答申も出て時間も立っておりますし、いつやるのか不安に思っている方もおられるでしょうから、地域の合意形成が整えば、スピード感をもって対応していきたいと思っております。
- 市 長 小中一貫については、現在の課題などはどんなところにあると思っておりますか。

○学校教育課長

金田北中学校区の小中学校5校の先生方にアンケート調査を実施しております。課題としまして、小中一貫教育によって目指している学校の方向性ですとか、何を目標にしていけばいいのか十分に理解が出来ていないというところで、多忙感を感じている先生方がいるということが挙げられます。

9年間を通して、さまざまな力を身に着けさせるために実施していきますので、全員で取り組んでいこうということを今後も発信し続けていきたいと思っております。

○市長

目的を明確にし、教育長はじめ、校長先生のリーダーシップに期待したいと思っております。

○市長

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。

滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。ここからの進行は事務局にお願いします。

○教育部長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

何もなければ、以上で第2回総合教育会議を閉会させていただきます。お疲れ様でした。

閉会：午後2時35分